

モニタリング結果報告書（平成25年度上半期）

施設	秦野精華園
指定管理者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間	H18. 4. 1 ～ H28. 3. 31
施設所管課	障害サービス課 ( )

今期の指定管理者の管理運営状況（1～6の結果を踏まえた総合評価）

**B**

（総合評価の基準）

- A：極めて良好な管理運営状況である。  
（「1 管理運営等の状況」を含むAが3つ以上で、CとDが1つもない場合）
- B：良好な管理運営状況である。  
（Cが1つ以下でDがない場合）
- C：一部改善が必要な管理運営状況である。  
（Cが2つ以上の場合。または、Dが1つの場合）
- D：抜本的な改善が必要な管理運営状況である。  
（Dが2つ以上の場合）

<p>&lt; 1 管理運営等の状況 &gt; 提案に基づき、中軽度知的障害者の就労支援や地域生活移行に取組み、確実に実績を上げている。就労支援については、ジョブコーチを配置して職場開拓や、就労後の定着に向けた継続支援を行い、上半期で4名が就労した。また、触法経験のある知的障害者を受け入れており、研修等を実施して職員の支援のスキルアップに努めている。</p> <p>&lt; 2 収支状況 &gt; 県と法人との協議により指定管理料の過年度分の精算を行ったため、8月の収支差額が大きくマイナスとなったが、それ以外の収支は安定していることから、B評価となった。</p> <p>&lt; 3 利用状況 &gt; 就労支援の実績を上げる一方で、チャレンジセンター（通所部門）の定員が埋まらない状況が続いていることから、定員対比86.8%となっている。児童施設の子加齢児や養護学校の卒業生の受入れに向けた関係機関への働きかけを行うほか、新たな就労支援プログラムを検討するなど、利用者の拡大に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p>&lt; 4 利用者の満足度 &gt; 利用者向けに満足度調査という形では実施していない。利用者の要望については、日常の支援の中で職員が個別に聞き取りを行う等により対応している。</p> <p>&lt; 5 苦情・要望等 &gt; 日常生活支援の中で、利用者や家族からの細々とした要望があるが、その都度対応できており、苦情にはつながらなかった。</p> <p>&lt; 6 事故・不祥事等 &gt; 利用者が一時所在不明となる事故が発生したが、早期の関係機関への連絡等、適切に対応し無事に保護された。再発防止に向けた検討も行っている。</p> <p>&lt; 今後の方針等 &gt; 6年の有期限利用で障害者の就労支援や地域生活移行に取組み、毎年確実に実績を上げており評価できる。これまで同様、事業に取組むとともに、新たな就労移行プログラムの開発による利用率の向上に期待したい。</p>
--

1 管理運営等の状況

評価 **B**

（評価の目安）

- A：事業計画、仕様書等の内容を上回る事業を実施した。
- B：概ね事業計画、仕様書等の内容どおりに事業を実施した。
- C：事業計画、仕様書等の内容のうち、一部の事業を実施していない。
- D：事業計画、仕様書等の内容のうち、半数以上の事業を実施していない。

(1) 事業の実施状況

	提案内容	実施状況等
1 (指定管理業務)	障害者支援施設（入所）及びチャレンジセンター（通所）の多機能型の日中活動におけるサービスの向上のため、有期限利用の前提の中で、地域生活移行を目標に個々の利用者の自己実現とステップアップを重視した支援を実施する。	地域生活移行等のステップアップ支援を推進するために、社会診断会議の実施とともに日中活動における支援方法を確認する個別支援計画の具体的実践をとおして次の資源への移行を推進した。 ・社会診断会議53回実施。 ・ホーム及び就労等への移行が1名、ホーム及びA型事業所への移行が1名、ホーム及び他施設通所先への移行が2名。チャレンジセンターより就労への移行が2名、在宅への移行が1名と退所につながった。

	提案内容	実施状況等
2 (指定管理業務)	ネグレクト等被虐待経験知的障害者や触法経験のある知的障害者を受け入れ、生活・職業スキルのステップアップ支援を実施します。また発達障害者への支援等も推進し職員のスキルアップを図る。	ネグレクト等被虐待経験者への支援、触法経験者への支援のため職員の支援スキルアップを図るため次のような取り組みを行った。 ・S S T (社会生活技能訓練) 支援のスキルアップに向け、7月に職員3名がS S T初級研修に参加。 ・内科医によるネグレクト虐待に関する研修を2回開催。(37名参加) ・臨床心理士による触法経験者への心理面接を実施(対象者12名に延べ45回実施) ・S S T支援、入所支援対象者に対して2回実施延べ9名参加。
3 (指定管理業務)	就労先、企業実習先の開拓や就労支援、就職後の定期的な訪問支援等により、知的障害者の就労等の基盤整備を推進します。	園のジョブコーチ、生活ホーム担当職員等が職場開拓や実習・就労支援、就職後の定期的な訪問等適時に必要な支援を実施。  ジョブコーチ支援82回、就労者継続支援173回 企業実習7名、ハローワーク等求職支援14回 職場開拓訪問8回、企業見学支援3回 面接支援支援4回 9月末までの就職者4名
4 (指定管理業務)	様々な要因から就学期に教育を受けることが難しかった利用者に対して教育的なアプローチの支援を推進する。	学習支援プロジェクトについて(学習を希望する方は年齢に関係なく共通したニーズであろうという考えから就学期プロジェクトの名称を変更) ・モンテッソーリ教育教材による勉強会の実施。 ・学生や一般の方のボランティアによる学習会を週末の余暇時間に実施。 ・5~6名の小グループによる学習会の実施。 ・個別対応による学習会の実施。
5 (指定管理業務)	児童入所施設の新入児の受け入れや、児童相談所一時保護所、養護学校等からの知的障害児の受け入れを推進します。	児童相談所や市町村、近隣の養護学校・児童養護施設と連携を図りながら受け入れ等を行った。 ・養護学校生の通所体験6名、延べ42日実施。 ・児童入所施設からの入所体験1名実施。 ・養護学校からの実習について実習担当者連絡会を開催し当園希望者への施設見学を実施。養護学校等から8名、延べ49日の受け入れ調整と反省会等を行いました。

(2) 月例報告書による確認状況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考(指導事項等)
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	—	○	—	—	無	
5月	6月10日	—	○	—	—	無	
6月	7月10日	—	○	—	—	無	
7月	8月10日	—	○	—	—	無	
8月	9月10日	—	○	—	—	無	
9月	10月10日	—	○	—	—	無	

※基本協定書上の月報等提出期限

翌月の10日まで

## 2 収支状況

評価 **B**

(評価の目安)

収支計画（支出額）と比較して

- A：収支状況が良好である（収支差額のプラスが10%以上）。
- B：概ね計画どおりの収支状況である（収支差額がプラスマイナス10%未満）。
- C：計画と異なり、収支差額に10%以上20%以下のマイナスが生じている。
- D：計画と異なり、収支差額に20%を超える大幅なマイナスが生じている。

単位：千円

		収入額（自主事業収入は除く）				支出額		収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		うち納付金	
募集時の県積算額 (参考)					0			0
年度計画	前年度	202,733	456,575	74,439	733,747	725,135	0	8,612
	上半期	100,938	228,287	37,219	366,444	362,567		3,877
	下半期	101,795	228,288	37,220	367,303	362,568		4,735
	今年度	199,683	477,337	74,626	751,646	746,474	0	5,172
	上半期	98,975	238,668	38,180	375,823	373,237		2,586
	下半期	100,708	238,669	36,446	375,823	373,237		2,586
上半期実績	4月	15,009	41,603	4,706	61,318	50,643		10,675
	5月	15,009	43,998	4,776	63,783	55,160		8,623
	6月	23,930	39,857	8,229	72,016	79,951		▲ 7,935
	7月	15,009	42,807	8,033	65,849	63,676		2,173
	8月	15,009	41,076	6,879	62,964	86,757		▲ 23,793
	9月	15,009	40,399	9,523	64,931	50,105		14,826
	上半期合計	98,975	249,740	42,146	390,861	386,292	0	4,569
	対収支計画比	0.0%	4.6%	10.4%	① 4.0%	② 3.5%		③ 1.2%
参考	前年度 上半期実績合計	100,938	243,455	43,162	387,555	344,546		43,009
	対前年度 上半期実績比				0.9%	12.1%		

※その他収入の内容 事業収入、寄付金収入、雑収入

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

### 収支状況に関する確認等

確認項目	該当	収支計画と異なる理由等
① 収入の増減（収支計画対比±10%以上）	×	該当なし
② 支出の増減（収支計画対比±10%以上）	×	該当なし
③ 収支差額のマイナス（上半期収支計画支出額対比）	×	該当なし

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等

基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：大規模修繕：指定管理者と協議、  
各所営繕工事・計画修繕工事：県、これ以外：指定管理者

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期		屋上防水および外壁工事進行中
下半期		
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等

支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等

積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

### 3 利用状況

評価 **C**

(評価の目安)

今年度上半期利用者数が、  
目標対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

目標利用者数等を設定してい  
ない場合、前年同期対比増減率で

- A : 105%以上
- B : 95%以上～105%未満
- C : 85%以上～ 95%未満
- D : 85%未満

入所施設等定員がある場合、定  
員比で

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	138 人	146 人	94.5 %
5月	139 人	145 人	95.9 %
6月	140 人	143 人	97.9 %
7月	139 人	144 人	96.5 %
8月	139 人	146 人	95.2 %
9月	138 人	142 人	97.2 %
合計	833 人	866 人	96.2 %

	利用者数	前年同期 利用者数	目標利用者数 (または定員数)	目標(定員) 対比増減率	前年同期 対比増減率
上半期計	833 人	866 人	960 人	① 86.8 %	② 96.2 %
下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %
合計	833 人	866 人	960 人	▲ 13.3 %	▲ 3.9 %

※目標値の設定の有無

期間	設定している	その他の場合の期間	
基準	通年	その他の場合の基準	
	施設の定数		

#### 利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 目標対比±5% (目標値対比増減率105%以上または95%以下)	○	・就労支援の成果があり、企業等への就労移行が進んでいるが、入所・通所における就労移行支援事業に定員が満たない状況が生じた。新たな就労移行プログラムを検討している。
② 前年対比±5% (前年同期対比増減率105%以上または95%以下)	×	該当なし

#### <参考>

##### 施設の最大利用可能人数

	160						合計
定員(1日あたりの延べ人数)	160						160
年間利用可能日数	365						
最大人数	58,400	0	0	0	0	0	58,400
半期	29,200	0	0	0	0	0	29,200

※複数の施設がある場合は個別に記入する。

#### 4 利用者の満足度（アンケート結果）

評価 —

（評価の目安）

「満足」（4段階評価及び5段階評価の場合、上位2段階）と答えた割合が

- A：80%以上
- B：60%以上～80%未満
- C：40%以上～60%未満
- D：40%未満 又は（A～Cにかかわらず）「不満足」と答えた割合が50%以上
- ：今期は実施していない

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い	合計	上位2段階の割合
総合満足度の回答結果						0	0 ( )

※今年度の実施予定

上半期 \_\_\_\_\_ 回

下半期 \_\_\_\_\_ 回

その他 \_\_\_\_\_

※配布・回収件数

配布 \_\_\_\_\_ 件

回収 \_\_\_\_\_ 件

回収率 \_\_\_\_\_ %

※実施方法

リストから選択

リストから選択

リストから選択

リストから選択

#### 5 苦情・要望等

評価 B

（評価の目安）

- A：要望等を積極的に把握して改善を行う等、サービス向上を図った。
- B：指定管理者に起因しない苦情・要望等があったが、適切に対応した（苦情・要望等がない場合も含む）。
- C：指定管理者に起因する苦情・要望等があったが、適切に対応した。または、指定管理者に起因しない苦情・要望等があり、適切に対応していない。
- D：指定管理者に起因する苦情・要望等があり、適切に対応していない。

##### 報告件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	簡易アンケート等	
上段：報告件数	5	1	0	0	0	6
下段：報告件数のうち所管課受付分	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )

##### 苦情・要望等への対応

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

※ 指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## 6 事故・不祥事等

評価 **B**

(評価の目安)

- A : 事故・不祥事等を防止するために積極的に取り組み、事故等が発生しなかった。
- B : 軽微な事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した（事故等が発生していない場合も含む）。
- C : 事故・不祥事等が発生したが、適切に対応した。または、軽微な事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。
- D : 事故・不祥事等が発生し、適切に対応していない。

### 発生状況及び対応状況

**該当あり**

発生日	事故等の概要	原因・問題点	指定管理者の対応状況・改善策等
4月25日	朝、園内の作業場へ移動中に利用者が所在不明となる。当日の午後に湯河原町の祖父宅にいると連絡が入り、16時に無事帰園する。	日ごろから所在不明になりがちな利用者に対し、注意はしていたが移動中に職員の目が離れる時間ができてしまった。職員間の利用者の共通理解と連携が不足していた。	原因、再発防止策、所在不明時の対応等、本人の行動特性を踏まえた支援方法について、課会議や園内リスク委員会で検討した。また、利用者移動中の支援方法を再度確認し、職員同士の連携強化に取り組んだ。

### 随時モニタリングの実施状況

**該当なし**

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果等
( )		
( )		
( )		